

移動式廃棄処理事業について



平成31年2月25日(月)
第19回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

2018年度事業

ハルビンの廃棄処理事業

【進捗状況】

- 2022年までにハルビン周辺の砲弾を含む約6000発を廃棄予定。
- ハルビン処理場の主要施設は2018年10月に竣工。制御爆破処理設備の据え付けも完了し、2019年春に廃棄処理を開始予定。

チャンバー



設備格納庫



ハルビン処理場全景

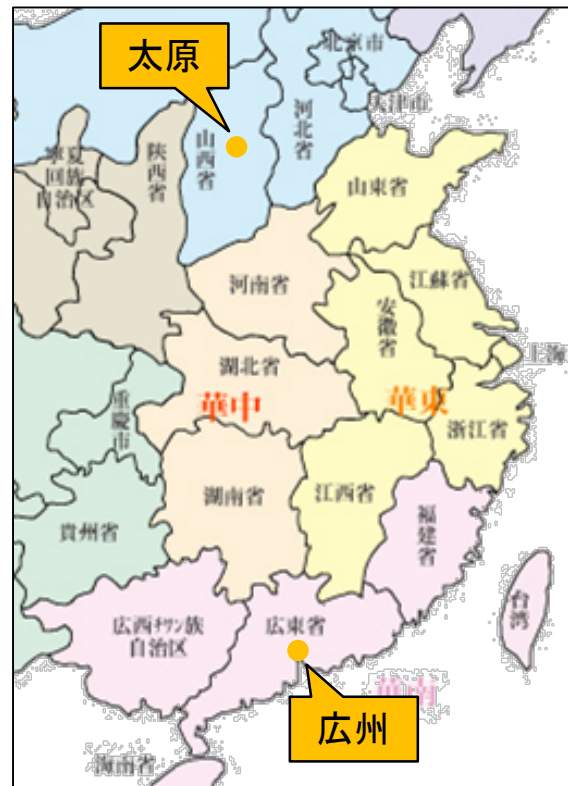


広州、太原の廃棄処理事業

【進捗状況】

○2022年までに広州、太原でそれぞれ約300発を廃棄予定。

○2018年度は用地の確定、また、従来よりも機動性の高い移動式処理設備の展開に向けた具体的な調整を実施。



広州と太原の位置

遼源保管庫の状況

【進捗状況】

- 2011年の外務省調査の結果、旧日本軍の化学兵器としてOPCWに申告。
- 2022年中に技術的検討を完了し、廃棄計画を作成予定。
- 2018年度には、今後の貯液槽内部の調査等に向けて、貯液槽を覆っている土の一部除去を実施。

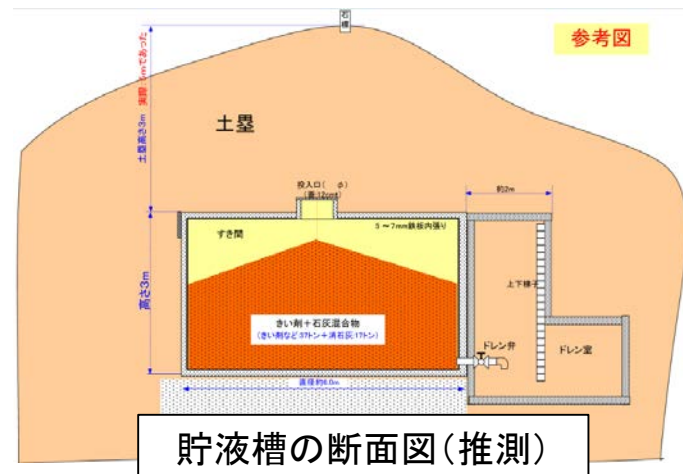
遼源の位置



保管庫(テント)の外観



参考図



【進捗状況】

- 遺棄化学兵器処理事業の過程で発生する廃棄物を、独自の地下廃棄物処分場で最終処分する方法を日中間で検討中。
- 2018年から2019年にかけて、南京保管庫に保管中の廃棄物を、独自の処分場に試験的に輸送し、最終処分を行う事業を実施中。



南京の位置

2019年度以降の主な課題

- ハルビン処理事業の円滑な実施
- 広州、太原の廃棄処理に向けた取組
- 遼源の遺棄化学兵器の廃棄計画の策定に向けた貯液槽内部等の調査等
- 廃棄物の最終処分方法の検討の継続